

SEISHUN! 献血



未来を育む
あなたの献血



下関市立長府中学校

2年

大井 おおい

夏穂 かほ

さんの作品

山口県健康福祉部薬務課
日本赤十字社山口県支部
山口県赤十字血液センター



「若者の皆さんの献血へのご理解とご協力が必要です。」

献血は、病気やけがなどで輸血を必要としている患者さんのために、健康な人が無償で血液を提供する身近なボランティアです。

輸血に使われる血液は、現在の科学技術でも未だ人工的に造ることができず、長期保存することもできないため、全て日々の献血により賄われています。

そのため、全国では毎日約14,000人、山口県では約150人の献血協力が必要とされ、献血で得られた血液は、多くの命を救っています。

こうした中、昨年度、県では約51,000人の方々に献血に御協力いただき、医療に必要な血液を確保しているものの、少子化の影響により献血可能人口が減少していることに加え、これからを支える10代～30代の献血者数は、この10年で約4割も減っており、このままでは近い将来、血液を必要とする患者さんに、血液を届けることができなくなるおそれがあります。

そこで、県では、「周りの人たちの献血行動に良い影響を与える高校生」を「**献血インフルエンサー**」と命名し、献血につながる一歩を後押しする取組など、若年層の献血者確保に努めています。

皆さんには、身近な社会貢献として、献血の大切さについて、友人や家族など周りの方々と理解を深め、献血の輪を広げていただくことを切に願っています。

献血は、「命をつなぐボランティア」です。
一人一人の行動が、血液を必要とする患者さんの命につながります。
皆さんの温かい御協力をお願いします。



日本赤十字社 山口県支部長
村岡 嗣政 (山口県知事)

INDEX

献血キャラクター

けんけっちゃん

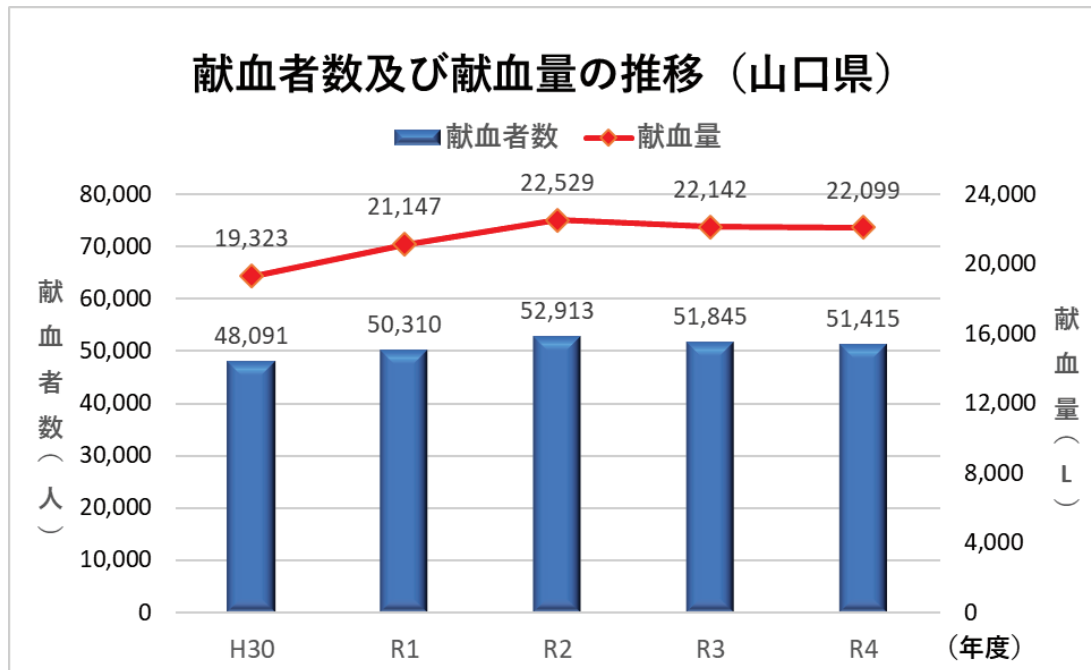


| | |
|----------------------|-------|
| 山口県の献血状況 | 1 |
| 献血のことQ&A | 2～3 |
| 高校生献血推進ボランティア事業について | 4～8 |
| 献血インフルエンサーについて | 9～10 |
| 令和5年度献血推進ポスター・作文入選作品 | 11～18 |
| 日本赤十字社山口県支部からのお知らせ | 19～20 |
| 山口県赤十字血液センターからのお知らせ | 21 |
| 献血ができる場所について | 裏面 |

山口県の献血状況

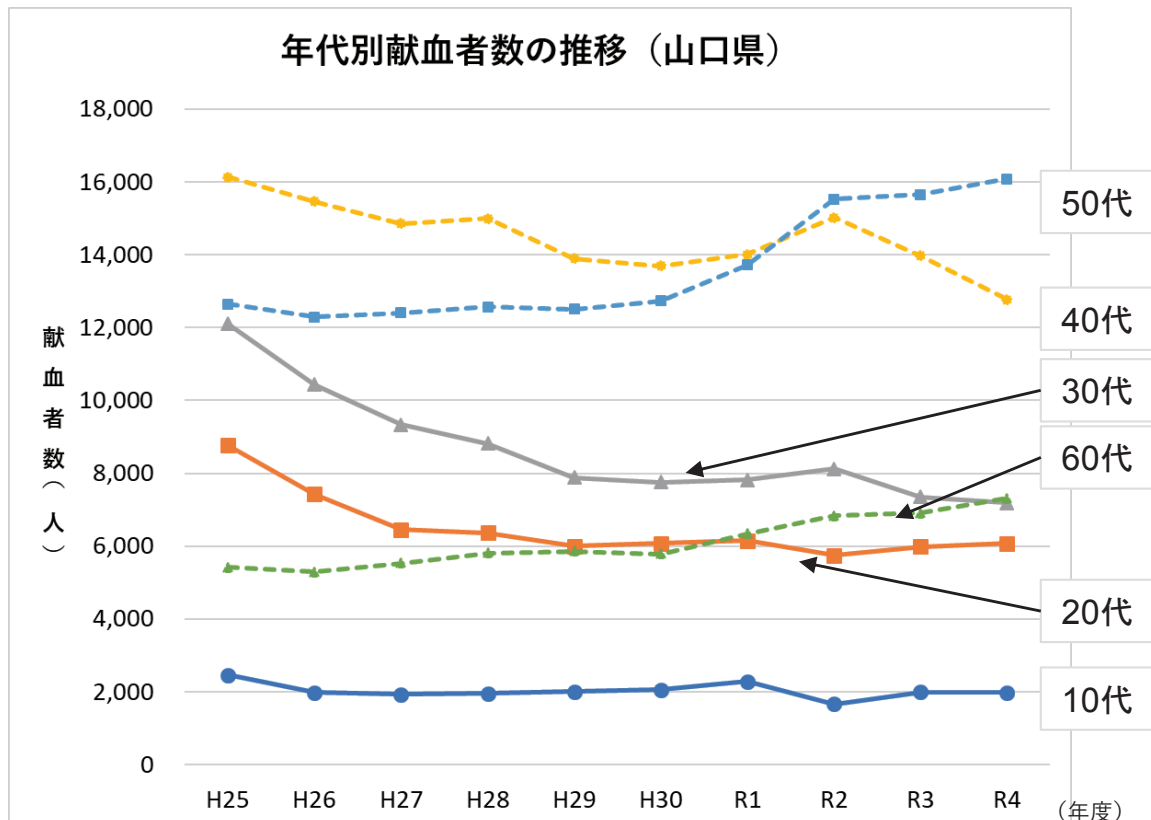
献血者数・献血量の推移

山口県の献血者数は年間5万人前後で推移しています。



年代別献血者数の推移

近年、少子化の進行により、献血可能年齢（16歳～69歳）の人口が年々減少しており、特に、20代～30代の献血者数は大幅に減少しています。今後もこの状況が続くと、将来、輸血用血液の安定的な供給が難しくなります。



献血のことQ&A



なぜ献血が必要なの？



献血は、病気の治療や手術などで血液を必要としている人へ、自ら進んで血液を提供することです。

血液は人工的に造ることができないため、輸血に必要な血液を十分に確保するために、継続的に多くの方からの献血への協力が必要です。



献血は何歳からできるの？



200mL献血は16歳から、400mL献血は男性は17歳・女性は18歳からできます。

※年齢のほか体重、血圧、血色素量、献血間隔など、採血基準に適合した人ができます。

採血基準の主なもの

| | | 200mL 献 血 | 400mL 献 血 | 成分献血 |
|--------|----|--------------|----------------------------|------------|
| 年 齢 | | 16歳 から | 男性 17歳から 女性 18歳から | 18歳 から |
| 体 重 | 男性 | 45kg 以上 | 50kg 以上 | 45kg 以上 |
| | 女性 | 40kg 以上 | | 40kg 以上 |



献血はどこでできるの？



献血は、全国の献血ルームまたは献血バスで実施しています。

県内の献血ができる場所については、裏表紙をご覧ください。

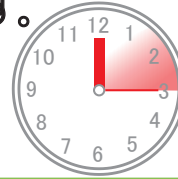




献血には、どれくらい時間がかかるの？

400mL献血で、採血時間は15分程度です。
問診や検査の時間も合わせると約40分です。

採血は
全血献血で
15分程度
だっち！



献血の流れ

1 献血受付



2 問診
血圧測定



3 血色素量等の測定
血液型事前判定



4 採血



5 休憩



6 献血カード受取り



「ラブラッド」って知っている？

「ラブラッド」は、日本赤十字社と献血者をつなぐ、Web会員サービスです。
アプリを登録して会員になると、次のメリットがあります。

なお、献血可能年齢未満の方でも、「プレ会員」として登録できます。

会員になると...

- 献血の予約ができます
- 問診の回答が事前にできます
- 過去の検査結果等を含む献血記録が確認できます
- ポイントを貯めて記念品と交換できます

プレ会員とは...

- 献血に関するクイズに答えたり、コンテンツを閲覧できます
- 献血可能年齢に到達すると初回献血の予約ができます



ラブラッドアプリのダウンロードはこちらから



高校生献血推進ボランティア事業

今、献血の一番大きな問題は、献血に協力してくれる若い人たちが減っていることです。

未来の献血を支える高校生に、そしてより多くの人に、献血のことを知ってもらい、参加してもらうために、高校生ボランティアが文化祭等の行事を活用して、献血に関する啓発活動を行いました。

また、校内献血に理解が得られた学校では、献血も行いました。

開催時期

令和5年4月～令和6年3月

※各学校の文化祭や地域イベントに併せて実施

参加校名

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 山口県立岩国高等学校広瀬分校 | 山口県立防府高等学校 |
| ❧ 山口県立岩国工業高等学校 | ❧ 山口県立防府西高等学校 |
| ❧ 山口県立高森高等学校 | ❧ 高川学園高等学校 |
| ❧ 高水高等学校 | 山口県立宇部中央高等学校 |
| 山口県立柳井高等学校 | 山口県立宇部西高等学校 |
| 山口県立柳井商工高等学校 | 山口県立宇部工業高等学校 |
| ❧ 柳井学園高等学校 | 慶進高等学校 |
| 山口県立周防大島高等学校安下庄校舎 | 宇部フロンティア大学付属香川高等学校 |
| ❧ 山口県立田布施農工高等学校 | 山口県立小野田工業高等学校 |
| ❧ 山口県立熊毛南高等学校 | 山口県立萩高等学校 |
| 山口県立南陽工業高等学校 | 山口県立萩商工高等学校 |
| 山口県立新南陽高等学校 | 萩光塩学院高等学校 |
| ❧ 山口県立華陵高等学校 | 山口県立大津緑洋高等学校日置校舎 |
| ❧ 山口県立下松工業高等学校 | 山口県立下関中等教育学校 |
| 山口県立光高等学校 | 山口県立下関西高等学校 |
| 山口県立山口高等学校 | 山口県立下関南高等学校 |
| 山口県立山口中央高等学校 | ❧ 下関国際高等学校 |
| ❧ 山口県立西京高等学校 | ❧ 早鞆高等学校 |
| 山口県立山口松風館高等学校 | |

※ ❧ は献血実施校（令和6年2月26日時点 決定分）

実施内容

- 献血セミナー受講
- 献血啓発パネル・ポスターの展示
- 献血啓発DVDの上映
- 献血クイズの実施
- 献血啓発ティッシュ等の配布
- 校内献血の実施

等



高校生献血推進ボランティア！活動の様子

6月

6月3日(土) 山口県立下関中等教育学校

生徒作成の献血啓発ポスターの展示、献血クイズ、啓発動画の上映等を実施した。献血の大切さや現状について知り、考えるきっかけになったのではないかと考えられた。



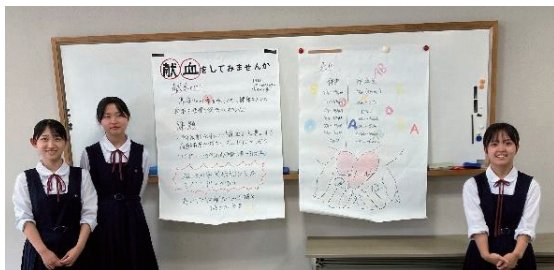
6月3日(土) 山口県立下関南高等学校

献血啓発パネルの展示、献血クイズ・アンケート、啓発動画の上映等を実施した。献血の意義や事例を知ることによって、献血事業への関心が高まった。



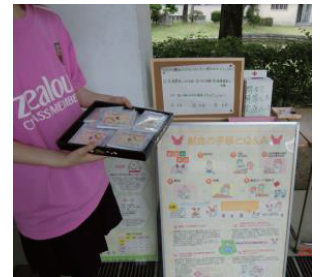
6月9日(金) 山口県立萩高等学校

献血啓発ポスターの展示、啓発資料の配布を実施した。献血について、来場者に知ってもらえることができ、生徒自身も活動を通じ、献血を知ることができた。



6月10日(土) 山口県立防府高等学校

献血クイズ、啓発資料の配布等を実施した。独自に工夫して献血クイズの問題を考えたことから、作成者のみならず、クイズ参加者にも、献血について、理解を深める機会になったと考えられた。



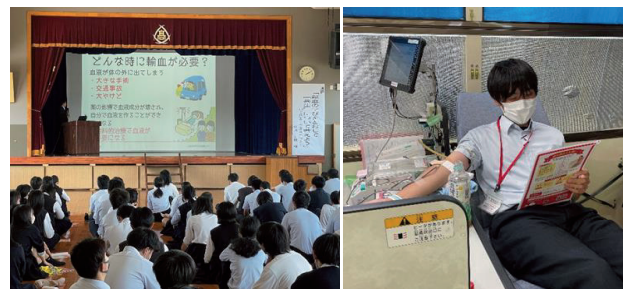
6月10日(土) 山口県立宇部中央高等学校

生徒作成の献血啓発ポスターの展示を実施した。献血の現状や生徒による献血の体験談等をまとめ、ポスターを見た高校生や保護者の方に献血に関心をもっていただけたように感じた。



6月19日(月)、7月19日(水)、 12月21日(木) 柳井学園高等学校

献血セミナー、校内献血を実施した。献血セミナーを通じて、献血に対する理解が深まり、身近にできる社会貢献として意識が高まったように感じた。



6月

6月24日(土)
萩光塩学院高等学校

献血啓発パネルの展示、啓発資材の配布、献血クイズを実施した。準備や当日の活動を通じて、生徒の献血に対する意識が高まったように思った。

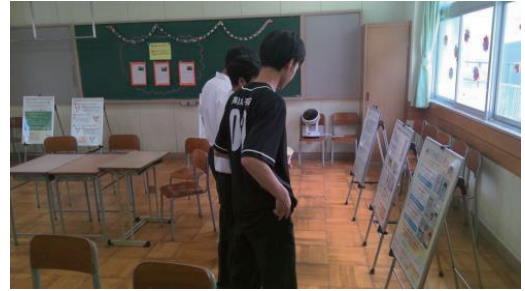


7月

7月5日(水)、13日(木)
山口県立柳井高等学校



献血セミナー、献血啓発パネルの展示を実施した。活動を通じて、献血に関する知識、関心が高まった。献血の現状をみんなが知る機会をもっと作るのが良いと思った。



8月

8月31日(木)
山口県立熊毛南高等学校

血液センターの職員さんと一緒に献血会場の準備を行い、校内献血を実施した。多くの人に献血の意義について理解してもらうことができた。



8月31日(木)
山口県立西京高等学校

献血啓発パネルの展示、啓発資材の配布、啓発動画の上映等を実施した。献血に興味を持ってくれる人が増え、生徒の保護者や兄弟にも啓発することができた。



9月

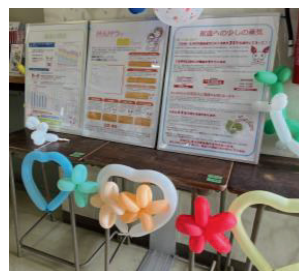
9月1日(金)、2日(土)
山口県立光高等学校

献血啓発パネル・ポスターの展示、啓発資材の配布を実施した。保護者を含めて、多くの方に啓発することができた。特に若者へ献血を勧める取組は非常に大切と感じた。



9月2日(土)
山口県立防府西高等学校

献血啓発パネルの展示、啓発資材の配布、募金等を実施した。多くの方にパネルを見てもらった。高校生のうちから献血の大切さを学ぶ機会を多く設けていくことが大切だと感じた。



9月

9月3日(日)
山口県立山口高等学校

献血啓発パネルの展示を実施した。献血について、よく知らない方も多いので、実施して良かったと思った。



9月9日(土)
山口県立山口中央高等学校

献血啓発パネルの展示、啓発動画の上映、献血クイズ等を実施した。献血を身近に感じてもらおうとともに、高校生でも協力することができることを知ってもらえた。



10月

10月16日(月)、11月22日(水)、24(金)
山口県立岩国工業高等学校

献血セミナー、校内献血、生徒作成のポスターの展示等を実施した。献血実施後は、献血をやり終えた達成感や人の役に立つことができたという喜びを感じる事ができた。また、生徒が献血の現状や協力依頼について伝えることにより、献血への関心が高まった。



11月

11月10日(金)
山口県立山口松風館高等学校

献血啓発パネルの展示、啓発資料の配布、献血クイズを実施した。展示やクイズを通じて、献血に関心を持った生徒もいた。



11月10日(金)、11日(土)
山口県立小野田工業高等学校

献血啓発パネルの展示を実施した。生徒(近隣校の生徒を含む)や保護者に見てもらい、啓発活動として効果があった。また、関心が高まり、今後、生徒自身が献血をしたいと感じた様子であった。



11月

11月18日(土)
山口県立宇部西高等学校

献血啓発パネルの展示、啓発資材の配布を実施した。高校生に献血を身近に感じたり、必要性を切実に感じたりすることは難しいので、なるべくこうした推進活動を目にする機会が増えると良いと思った。



11月18日(土)
山口県立宇部工業高等学校

献血啓発パネルの展示、啓発資材の配布等を実施した。献血に行ってみようという生徒が増えた。若者の献血に対する認識率が低いので、これからもさまざまな形で情報発信が必要だと思った。



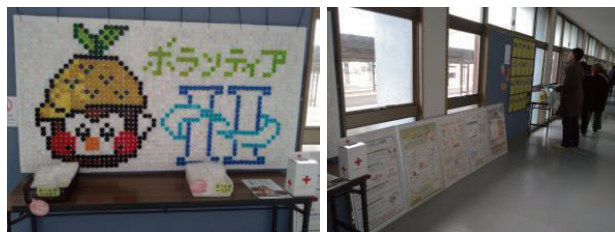
11月18日(土)
山口県立大津緑洋高等学校日置校舎

献血啓発パネルの展示、啓発資材の配布を実施した。献血の現状や献血に関する最新の情報を提供することができ、献血に興味・関心を持ってもらう良い機会になった。



11月25日(土)
山口県立萩商工高等学校

献血啓発パネルの展示等を実施した。献血について知ることができたが、実施場所などよく分からなかったので調べてみたいと感じた。手軽に献血が実施できるように、学校の休み時間や放課後等に献血車が来たら、学生や先生も献血しやすいと思った。



～献血セミナー実施～

- 山口県立岩国高等学校広瀬分校
- 山口県立岩国工業高等学校
- 山口県立高森高等学校
- 高水高等学校
- 山口県立柳井高等学校
- 柳井学園高等学校
- 山口県立周防大島高等学校安下庄校舎
- 山口県立田布施農工高等学校
- 山口県立南陽工業高等学校
- 山口県立新南陽高等学校
- 山口県立華陵高等学校
- 山口県立下松工業高等学校

- 山口県立西京高等学校
- 山口県立防府西高等学校
- 山口県立宇部工業高等学校
- 宇部フロンティア大学附属香川高等学校
- 山口県立下関中等教育学校
- 山口県立下関西高等学校
- 早鞆高等学校

(令和6年2月26日時点 決定分)



献血インフルエンサー

県では、若年層の献血行動につながるきっかけづくりを目的に、「周りの人たちの献血行動に良い影響を与える人」を「**献血インフルエンサー**」と新たに命名し、その増加と育成に取り組んでいます。



今年度は、「**模擬献血体験会 & 献血セミナー**」を県内の高校生を対象に、実地形式（場所：やまぐち献血ルームFor you）及びオンライン形式で開催しました。

～やまぐち献血ルームFor youでの模擬献血体験会の様子～

1 受付



2 問診・事前検査



3 採血



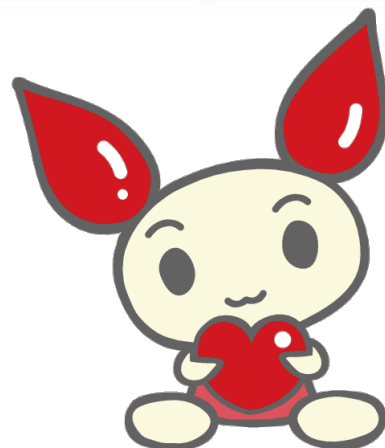
参加者の感想

- もっと多くの若者が献血を知るためにも、高校生の参加が増えるとより多くの方が献血に興味を持つと思う。
- 今まで知ることが出来なかった献血の内部まで知ることができて、大変興味深かった。献血インフルエンサーとして、これからどんどん献血について広めていき、全国上位になれるようたくさん努力したいと思った。
- 献血を必要としている人がたくさんいることを知って、献血の必要性を理解することができた。

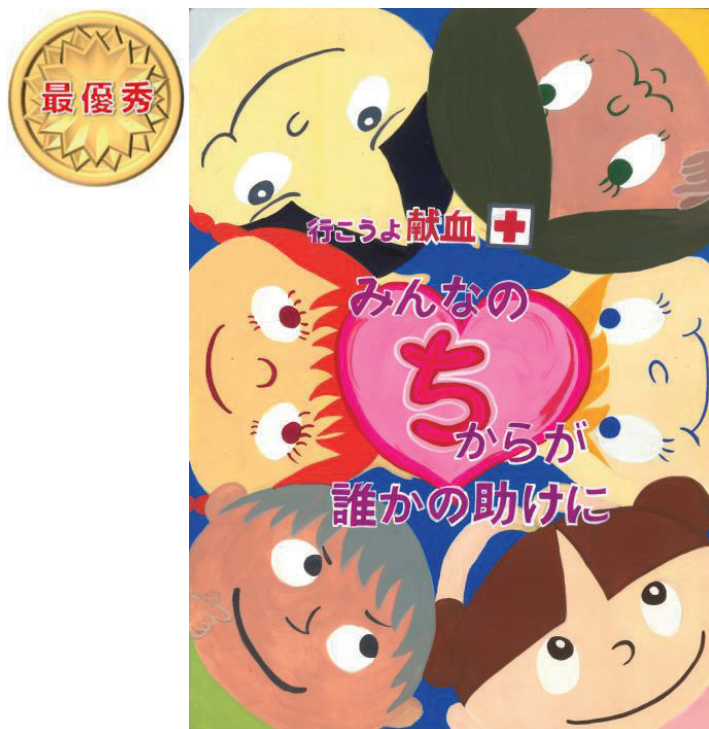
模擬献血体験会&献血セミナー参加校

山口県立岩国工業高等学校
山口県立下松高等学校
山口県立小野田高等学校
山口県立厚狭高等学校
山口県立長府高等学校

献血インフルエンサーに関する
情報はこちらから



令和5年度 献血推進ポスター入選作品



下関市立長府中学校2年

おおい かほ
大井 夏穂



岩国市立岩国中学校3年

やまもと りこ
山本 莉子



山口県立柳井高等学校2年

かわもと すずな
河本 珠七



岩国市立岩国中学校3年

いのうえ はるか
井上 遥香



山口県立防府西高等学校3年

いしだ たくみ
石田 匠



防府市立右田中学校2年

うちやま ちひろ
内山 稚裕

令和5年度 献血推進作文入選作品



「学校の献血セミナーで学んだこと」

柳井学園高等学校 3年 すずき こうせい 鈴木 洸晴

「献血とは何か、正しく言うことができるか」と問われた時、多くの人は「血を必要として苦しんでいる人に、自分の血を分けてあげること」など、これに似たようなことを答えるのではないのでしょうか。けれども、これは「献血」という言葉の意味だけであって、献血がなぜ必要なのか、どのような患者さんが利用するのかなど、本当の意味で理解している人は少ないように感じます。僕も少し前までは、全く知りませんでした。

先日、学校で「献血セミナー」があり、その後で「卒業献血」として、初めて献血に参加をしました。それは、セミナーで、輸血に使用する血液は最新の医療をもってしても、今はまだ人工的に造ることができなくて、長期保存も難しいことや、輸血のほとんどが悪性新生物（ガン）や循環器系の患者に届けられることを知ったからです。そのため、何も知らなかった恥ずかしさもあり、僕も何か力になれば、と思い献血に申し込みました。血を400mLもとるのだから痛いだらうな、と思っていましたが、痛みは全くなく、10分という短時間であっさりと終わりました。そして、僕の心は、自分が社会に貢献することができた喜びと達成感、清々しきでいっぱいになりました。実際、献血が終わって教室に帰った時、献血を受けた人はみんな清々しい顔つきをしているように感じました。ほんの少しの勇気でできることなのだと、改めて実感することができました。

しかし、課題も山積みです。特に、国内では、少子高齢化により輸血を必要とする高齢者層が増加し、若い世代が減少しています。この10年間で、10～30代の献血に協力する人は31%も減少しているというデータもあり、今後益々少子高齢化が進んでいくと、血液の安定供給にも支障をきたす恐れがあるということが気になります。また、同じ血液型同士でないと、体が反発を起こしてしまい、献血ができないということです。こういったことを解決するためには、誰か知らない人を助けると言うのではなく、輸血を必要としている人が自分にとって親しい人・大切な人なのだという気持ちをもって、若い世代が中心となって献血への理解と協力を促しながら、継続して取り組んでいくべきだと思います。だから、僕はきっかけがお菓子目当てでも、記念品目当てでも何でもいから、仲間同士で誘い合って、その輪を広げていき、献血の根をどんどんと張り巡らせていけば、課題は少しずつでも改善されていくのではないかと思います。そして、こうやって取り組んでいくことで、一人でも多くの命を守ることができると、僕は嬉しいです。



「献血推進作文」

柳井学園高等学校 1年 おかざき 岡崎 そうた 颯太

僕は、先天性の病気をもって生まれました。まだ小さい頃の話なので、ほとんど覚えていませんが、両親に話を聞くと、生後一か月で感染症による重症肺炎を発症し、先天性の病気の影響もあり、重篤な呼吸不全になったそうです。その際に、献血で集められた血液から作られた免疫グロブリン製剤という薬剤を使用し、長い入院生活になりましたが、回復することができたそうです。また、開腹手術の後にも、一時的に血小板輸血をしました。僕は、献血に貢献してくれた方々によって、命を救われたのだと思います。このように、献血により集められた血液で、救える命はたくさんあります。だから、僕はいろんな人に献血の大切さを知ってもらいたいと思っています。

僕は、以前親に「献血をしてみたい」と言ったことがありましたが、親はその時残念そうな顔をして「あなたは献血をすることは出来ないと思うよ。献血をするには、いろいろな条件が整わないといけないからね。」と言いました。そう、献血はやってみたい、という思いだけではできなかつたのです。特定の病気にかかっている人、体重制限や年齢制限、献血日の体調不良、薬を服用している人などは献血ができず、基本的に健康で条件が満たされた人だけができます。僕は、体重の基準に足りなかつたことと、過去の輸血や血液製剤の使用により、条件からはずれました。僕は残念ながら献血をすることが出来ませんが、献血が一人でも多くの命を救う大事な活動であることを、自分の身をもって理解しています。中には、自分がやらなくても他の人が献血するだろう、という考え方の人もいるかも知れませんが、今後そのような考え方をする方が増えていくと血液は不足し、自分がけがや輸血を必要とする病気をしてしまった時に、すぐに輸血できる状態にならないことが増えてしまい、救える命が救えるはずだった命になってしまう可能性も充分にあります。その可能性を少しでも減らすためにも、自身の経験や知り得た知識を広め、献血は本当に大切な活動だということを、皆さんに知ってもらえたらと思います。

世間でも若者の献血離れが進んでいるようなので、今回その第一歩として、自分の病気の経験から思ったことを中心に、活動を応援している者としてこの作文を書きましたが、他にも知識を深めるための勉強会などがあるのであれば、積極的に参加してみたいと思いました。



「気軽な献血」

宇部市立常盤中学校 2年 木村 唯人 きむら ゆいと

ある日、父が仕事帰りに、立派な四角い箱を持ち、ご機嫌な様子で帰ってきた。私がすかさず「その箱は何なの。」と聞くと、「献血の記念品のおちよこが届いたんだよ。」と父は言った。前々から父が献血に行っていたことを知っていた私は、また疑問を持ち、「じゃあ、そのおちよこが欲しくて献血に行っていたの。」と聞くと、父は「それもあるけど、毎回血液検査をするから健康状態が分かるのもあるよ。」と答えた。正直、私は少し驚いた。というのも、私が小学校低学年くらいのときから、学校やテレビの広告などで、「献血で救える命がある。」ということや、「献血でつなぐ命。」など、社会貢献の意味が強いものとして教わってきた。なので、献血する人皆が、そういった意識を持っているのかと思っていた。しかし、父が献血する理由が、私が想像していた「人助け」という理由より軽いものだったのでびっくりした。

そして、私は、他にも父のような軽い理由で献血に行く人がいるのか、インターネットで調べた。そしたら、「献血で社会貢献をしよう！」という記事が出てきた。読むと、父と全く同じ理由の人や、「趣味のようなものだから。」という人、他の記事では、「献血ルームではお菓子が食べ放題だから。」という人、さらには、「献血ルームで漫画が読めるから。」という人など、人助けとは程遠い理由の人が多くびっくりした。でも、その二つの記事どちらにも書かれていたことがあった。

それは、「このくらいの気軽な理由でも、結果的には人のためになっていますよ。なので、気軽に献血に行ってはどうですか。」という意味の文であった。この文を読んだとき、私の献血に対する意識、考え方が変わった。今までは、前にも書いたように社会貢献の意味が強いものというイメージが大きく、少し極端であるが、献血に行くときは、そういう社会貢献、人助けの意識を持たないといけないとなんとなく思っていた。しかし今は、前述の二つの記事を読んだり、父が献血へ行く理由を聞いたりして、献血に行く理由は自分のためでも全然良いという考え方に変わった。父も、記事で取材されていた人達も、皆何かしら、献血へ行くメリットを見つけ、献血に通いつけている。そして、結果として社会貢献、人助けになっている。たとえば、理由が血液診断のためでも、漫画やお菓子のためでも。

話は変わるが、私がこの献血への視点を特に知ってほしいと思うのは、十から三十代の若者である。日本赤十字社によると、少子化もあると思うが、ここ十年間で十代から三十代の人々の献血協力者の数が約三十%減少しているという。自分も含め、まだ献血に行っていない人は、一度人のためとかは置いて、自分なりの献血へ行くメリットを見つけ、一度気軽に行ってみてはどうだろうか。



「献血ボランティア」

柳井学園高等学校 3年 橋本 はしもと ひびき 響

私はこの夏、地域のショッピングセンターで、献血の呼びかけボランティアに参加しました。そして、献血を呼びかけながら、ティッシュ配りをされていて、気づいたことがありました。

まず、行き交う人にティッシュを差し出すと、「私、もう年齢超えているのよ。ごめんね。」という声や、「若い時には沢山献血したんだけどね。」という声が多かったことに気がつきました。血液の成分によって違いはありますが、献血には、最高で69歳までという年齢制限があります。ティッシュ配り中にこのような声が多く、少子高齢化問題が地域にも差し迫っているのではないかと感じました。実際、献血量が足りていないことは問題として挙がっているようで、山口県では十代、二十代、三十代の献血者数が減っているそうです。このままだと今後、輸血を必要とする人に血液が届かなくなることも考えられます。

ボランティア中に、次第に私も献血をやってみたいと思い、ティッシュ配り後に、初めて献血をしました。献血をするまでに、健康チェックや血液検査など、様々な項目がありました。しかし、実際にかかった時間は、全部で三十分ほどで、痛みも針を刺すときに少しあっただけでした。看護師さんも優しくかったので、思ったより早く感じました。買い物中の若いカップルや、家族連れの方も献血をされていました。献血をした後は、私の血液は誰の役に立つのだろう、とうれしい気持ちになりました。

血液は、当たり前私たちの体を流れていますが、今の科学技術では、人工的に造り出すことができません。「人間を救うのは、人間だ。」という献血のキャッチコピーを見て、はっとさせられました。事故や災害、血液疾患などの病を抱える患者さんは、今も私たちの血液を必要としています。気軽にでき、さらには誰かの命も救うことができる、献血という温かな社会貢献を私たち若者が中心になり活発に参加していかなければならないと思います。そして、私も参加者の一人として、二回目の献血の案内が来たら、必ず足を運ぼうと思っています。



「今、生きていられるのは」

山口大学教育学部附属光中学校 1年 藤本 阿子 ふじもと あこ

「母は輸血に命を救われた。」

そう教えられたのは、まだ小学生にもなっていないころのことでした。このころは、母の話の内容が理解できず、あまり記憶に残りませんでした。もう一度、母の話をしっかり聞いてみようと思ったのは、献血推進作文を書こうと、決めてからでした。

母が輸血に頼ることになった理由は、私達を無事に出産するためでした。ちなみに、私が、「私達」と作文に書いたことにも、理由があります。私には、双子の妹がいます。このことが、母の出産にも大きくかかわることだからです。母は、私達を自然に産む「自然分娩」という方法の出産を望んでいました。

ところが、三十六週目辺りを過ぎると、急に母の体調が悪くなりました。血圧がどんどん上昇する、体がむくむ、肝臓の機能が低下するなどさまざまな症状が出ました。だから、急きょ「帝王切開」という方法で、私達を産むことになりました。帝王切開とは、母親のお腹を切り開いて赤ちゃんを取り出す、出産の方法です。この方法は、母親のリスクも伴います。出血多量で母親の体が持ち堪えず、死んでしまう、というケースも考えられるということです。

手術予定日、母はやはり、緊張していました。手術をする前に、腰から下の感覚をなくす、腰椎麻酔を打つのですが、大きなお腹が邪魔をして、うまく丸まることができず、麻酔がうまく打てなかったそうです。だから、母には私達を取り上げる感覚が伝わってきて、少し痛いと感じたそうです。そう考えている内に、母の意識はだんだんもうろうとしてきました。赤ちゃんが二人分入っていた母のお腹には、ものすごく大きな負担がかかっていたのでしょう。母のお腹から出た血は、うまく止血ができず、二リットル近くの出血をしてしまいました。大人の体には約四～五リットルの血液があり、一リットル以上の血液を失うと、命に危険が及ぶそうです。このまま出血をし続けると、母の体は持ちません。そのような時、命の手を差し伸べてくれたのが、輸血でした。母の止血をしながら、輸血をしていたので、何とか母の命は助かりました。普通、大量の輸血をした人は、たくさんの人の血が混じっているのですが、副作用が出るそうですが、母はあまり副作用が出なかったそうです。それは、四百ミリリットル献血をして下さった方が多く、小人数の血しか混ざらなかつたからだ、私は考えました。

献血をして下さった方々は、母の命の恩人です。献血がなければ、私は母の顔を見ることすら、できなかつたでしょう。母も、

「私の命を助けてもらった献血には、とても感謝している。」

と、言っていました。この話を聞き、私は、「私の知らない『誰か』に手を差し伸べたい。」と思いました。みなさんも、「誰か」のために献血をしてみませんか。



「助け合いの輪」

宇部市立常盤中学校 3年 藤本 乃愛^{ふじもと のあ}

献血というと、商業施設に買い物に行ったときに献血車で献血の協力を募っているのを見かける程度の認識しかなかった。以前、何度か母が献血しているのにくっついてみたことがあったが、針が痛そうだなと思ったくらいしか印象がなかった。

今回、献血について作文を書くにあたって献血について自分なりに考えてみた。そうするとたくさんの疑問が湧いてきた。わざわざ時間をかけて自分には何の得にもならない、ましてや何回も太い針を刺されて痛い思いまでして献血をするのは、そのひとにとって何の意味があるのか疑問に思った。そこで献血について調べてみた。献血には全血献血と成分献血の2つの種類がある。全血献血では、血液中のすべての血液を献血する方法で、短時間で終わる。一方で成分献血は、血小板や血漿といった特定の成分だけを採取し、体内で回復に時間のかかる赤血球は再び体内に戻す方法がある。成分献血は、体に負担が少ない短いサイクルで次の献血ができるようになるが、一度体内から血液を採り、必要な成分を取って、また体内に戻すためかなりの時間が必要となるということが分かった。うちの母のように献血をやる人は機会を見つけてはたびたび献血をしている。反対にしない人は一生することはないし、献血を強要されることはない。この違いは何なのだろうと思って母に聞いてみた。すると母は、健康な限り血液は作られるのだから、必要としている人がいるなら分けてもいいじゃない。自分だって必要な時が来るかもしれないし、助けてもらうかもしれない、自分の損得ではなく、自分に出来ることをしているだけだと。その言葉を聞いて驚いた。同時に反省した。これまで自分は誰かのために何かをしようと思ったことなんてなかった。ましてや知らない誰かのために自分の時間を費やして何かをしようなんて思ったことはなかった。

献血とは、たくさんの人の善意の思いやりで成り立っていることに気が付いた。血液を必要とする知らない誰かのためにそれぞれができることをするなんてとてもすごいことだと思った。このシステムが成り立っていることこそ、優しい社会だと感じた。たくさんの人が誰かを思いやる事が出来れば、戦争なんてありえなくなるのにと考えた。

献血は十六歳から可能になる。私はまだ十四歳でまだ出来ないけど、できる年齢になったらぜひやってみたいと思う。自分の血液が必要としている人の命をつなぐお手伝いができるならば少し誇らしくも思える。たくさんの人がそんな気持ちになってもらえたら、もっともっと優しい社会になると思う。

日本赤十字社は、世界 191 の国と地域にある赤十字社の 1 つで、日本赤十字社法という法律に基づき設置された認可法人です。東京に本社を置き、全国 47 都道府県に支部があります。赤十字の施設には、赤十字病院、血液センター、社会福祉施設などがあり、人々のいのちと健康を守るために事業を行っています。災害発災時の救護活動、世界のネットワークを活かした国際活動、皆さんのいのちと健康を守る救急法等の講習会及び防災・減災セミナーの開催など、赤十字活動は多岐にわたっています。また、これらの活動は、皆さまからのご寄付やボランティアの方々によって支えられています。

日本赤十字社山口県支部の主な活動

災害救護活動

災害が発生すると、医師・看護師などで編成された救護班（1 個班あたり医師・看護師ら 6 人）を派遣し、被災現場や避難所での診療、こころのケア活動などを行います。

また、救援物資の配布や義援金の受付をし、被災者への支援を行います。



各種講習会



“いざという時”命を守るための救急法や高齢者への介護技術を習得できる健康生活支援講習など、各種講習会の普及に取り組んでいます。

赤十字奉仕団活動



災害に備えた炊き出し訓練や地域の美化活動、社会福祉施設訪問など赤十字事業を支え、地域のニーズに応じた活動を行っています。

国際活動



紛争や自然災害等の緊急時における救護活動に加え、各国赤十字と連携し、地域に根差した取組みを行っています。

青少年赤十字活動



全国の幼保・小・中・高の学校等の教育現場約 1,400 校、約 350 万人の子ども達が「気づき・考え・実行する」の態度目標のもとに活動しています。

赤十字活動に関するお問い合わせ

日本赤十字社山口県支部 TEL 083-922-0102

身近な仲間の赤十字活動

山口県内の青少年赤十字加盟校（小学校 104 校、中学校 32 校、高等学校 36 校）の生徒（メンバー）が各地域で様々な青少年赤十字活動を行っています。

加盟校募集中！！



リーダーシップ・トレーニング・センター



山口県内加盟校のメンバーが、共同生活の中で様々なプログラムを体験し、リーダーシップを養っています。

献血推進活動



世界の人びととの友好親善の精神を育成します。

防災教育



子どもたち自らが災害からいのちを守るよう楽しみながら学べる防災教育を展開しています。
（写真は、地域の幼稚園児に防災の大切さを伝える萩高校の生徒）

山口県青年（学生）赤十字活動

山口県内の大学生・社会人のボランティアと一緒に活動する団体です。現在は山口大学と山口県立大学の学生赤十字奉仕団のメンバーが中心となり活動しています。もしかしたら、皆さんの先輩も活躍しているかも…！？

赤十字PR活動



赤十字が行っている、災害救護・AEDの講習・献血などを多くの方に知ってもらう広報活動や研修を行っています。

街頭募金



国内外の災害や海外の紛争などで苦しんでいる人を救うため、学内や街頭で募金活動を行っています。

研修会の開催・受講



研修会のなかで赤十字や防災、国際人道法についての知識を深めたり、今後の活動について意見交換を行っています。

身近な社会貢献活動～中古本等の買取による寄付プログラム「キモチと。」～

この取り組みは、使用しなくなったもの（中古本、CD等）をブックオフに買い取っていただき、その買取額が赤十字に寄付されるプログラムです。

詳しくは、「日本赤十字社山口県支部」ホームページのバナーをクリック⇒



日本赤十字社の使命

わたしたちは、苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守ります。



+ 日本赤十字社 山口県赤十字血液センター からのお知らせ

大学・短大・専修学校生のボランティア団体

山口県学生献血推進協議会～フクラブ～

山口県内の大学・短大・専修学校のボランティアの学生さんたちが、10代20代の方を中心に、より多くの方に献血をしていただけるよう活動しています。

街頭献血

年4回の街頭献血キャンペーンを企画し
献血の呼びかけを行います。



役員会

月に1回程度役員会を実施。
キャンペーン内容などの話し合い
を行っています！



全国の 学生との交流

代表の学生による会議を定期的
に行い、献血活動を充実させています！
久しぶりに対面でも実施できました。



フォロー&いいね
お願いします！

X
YamaGakusui



instagram
yamagakusui



献血ができる場所

移動採血車（献血バス）

山口県内各地の事業所やショッピングセンター等を日々巡回しています。



献血バスの配車予定は、山口県赤十字血液センターのホームページをご覧ください。

ブラウザで検索する

QRコードから検索する

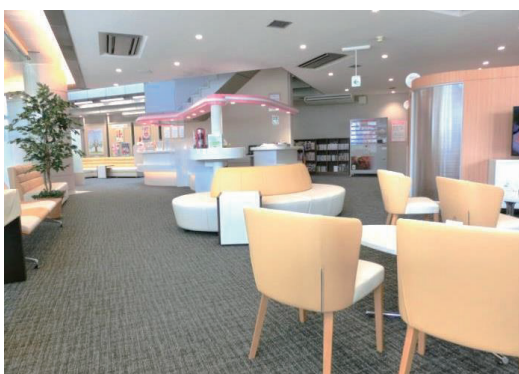
献血バス 山口県 



または、山口県赤十字血液センターフリーダイヤル ☎0120-456-122までお問い合わせください。

やまぐち献血ルームFor you

カフェのような空間で、リラックスしながら献血ができます。



受付時間：〈成分献血〉9:00～11:30／13:00～16:00
〈全血献血〉9:00～12:00／13:00～17:00

2023年4月1日から、受付時間が変わりました。
※定休日：木曜日

所在地：山口県山口市野田172-5

アクセス：〈JR山口線〉山口駅から車で5分
〈防長バス・JRバス〉「日赤前」バス停から徒歩5分



献血に関するお問い合わせ

最寄りの各市町窓口・県健康福祉センター（環境保健所）

山口県健康福祉部業務課 ☎083-933-3018

山口県赤十字血液センター ☎0120-456-122

～あなたの献血で、ひとりの命が救われます～